

ひきこもり、社会的自立が困難な人 たちへの支援



大森西北支部
森 光男さん

配食サービスやきに参加しながら、若者への自立や就業支援の活動をしています。数年前に、ひきこもりや社会的自立が困難な若い人たちが中心になって「みつばち」というグループをつくりました。地域の配食活動に参加してもらったり、さまざまなボランティア活動にも参加して、自立するための活動をしています。



すべての議案が採択されました

社会的自立の困難な若い人引きこもってしまった若い人たちの中には、いったん仕事に就いたが、いろいろな事情で辞めて、それがキッカケでいろいろなことがうまくいけなくなってしまう場合があります。若い人たちの中の広い層に困難な状況が広がっています。

さまざまなケースがあります。が、私たちの力だけでなく、地域行政センター、福祉の関係職員、保健生協の関係などいろいろな方たちに支援をいただきながらサポートしています。現在、大田区から助成金をもらい、社会的困難な若者たちの相談の場をつくらうという取り組みをすすめています。私どものNPO「ゆうえふ」では相談会を週1回行っています。もしお近くにお困りの方がいましたらご紹介ください。話を聞きたい場合は出張してお伺いもします。



池上支部
星野 弘子さん

敷居が低くなった病院、保健生協を知り みなさんと一緒に健康な生活を

生協のほとんどすべての行事に参加していますが、理由があります。私が育った所は長野県の山の中でいわゆる無医村です。病院にかかるとは非常に敷居の高いことで、祖母や母は入院することなく息を引き取りました。豪雪地帯だったので病人を病院まで25キロの山道をかついで行くわけにはいかなかったのです。

敷居の高い病院ですが、必要にせまられて大田病院に行き入院するときに「入院のしおり」をいただきますが、「患者さまは一人の人間として人格、価値観などを尊重された医療を受けることができます。患者さまはわかりやすい言葉で、十分な説明を受け納得、同意したうえで医療を受けること、または拒否



大田病院医療社会課
辻 加奈江さん

大田病院相談室ではこんな相談を受けています 困っている方が地域にいたら連絡を

大田病院相談室では、入院の方や外来の方のさまざまな相談を受けています。経済的なこと、介護問題、自立支援のこと、療養のことなど。経済問題では、生活保護申請

することができません」と書いてありました。それから私にとって病院の敷居が低くなりました。手術をしなければならぬ状況になった時、主治医の先生は、「丁寧な説明の後「これが現状ですが、あなたはどうなさいますか？」と言ってくださいました。医師の都合や病院の都合ではない。私が決めていいんだ。これが民主的な医療なんだ。そういうことになる」と、自分の病気のことを知っていないと先生に返事ができな。いろいろな本も読んで、学習もしました。すばらしい経験ができてすばらしい病院に出合えたことで、何かお手伝いできることはないかと思いついたところ保健生協があり、とにかく参加してみようということに。

私は、自分の健康のこともあって「食生活指導士」という資格をとりました。ぜひ今後みなさんと一緒に健康な生活を送っていけるような活動をしていきたいと思っています。

2つの異なる判決 老齢加算の復活を 後期高齢者医療制度の廃止を



生存権裁判原告
榎原 芳治さん

東京高裁では「敗訴」となりました。不当判決であり、上告することにしました。

地域の目というのとても大切なので、つながりがあればと思っています。ご近所の方に病院にかかる必要がありそうかどうか、お金の問題で受診を控えているという方がいましたら、ぜひご連絡してください。

地域で網の目の ネットワークを 広げましょう



常務理事
前沢 淑子さん

毎週火曜日の午前中、大森診療所の1階で「なんでも相談」を担当しています。大田病院の職員として、地域やみなさんのお手伝いができることをとてもうれしく思っています。相談者は、やはり大田区在住の方が多いのが特徴です。外来のついでという方もいれば、わざわざこの日に来た、という方もいます。品川区、世田谷区、神奈川県から来る人もいます。性別は男女そんなに変わらず、年齢はやはり60歳を超えたりいろいろなことが出てくるようが多い状況です。

もう一つは後期高齢者医療制度を廃止してもらいたい。今後はとも署名を他でみなさまにお願いすることがあると思いたします。その時はよろしくお願いたします。

人間らしく働ける 世の中に



大田労連議長
中山 六男さん

ある会社のことです。この会社はあちこちにありますが、この経営の中心は50人の従業員がいたら正社員は3人か4人くらいです。あとはみんなパートかアルバイトです。昨日団体交渉に行きました。その中で一つのお店の店長さんが「おま

このような中で、やはり保健生協が頼りにされていることを実感します。地域に班がもっとあって、そして組合員がもっと増えれば、私たちが地域で網の目のネットワークが広がられると思います。それが「安心して住みつけられるまちづくり」になり、それをきっかけに制度改正への力にも結びついていくと思えます。

1億円突破!! 地域に根付いた病院 大きな意義

今、労働者が人間らしく扱われないというのが大きな問題です。弱肉強食の世の中になっていきます。労働者は肉体的にも精神的にも丈夫でないとメンタルになってしまいます。そういう労働者を一人も出さないという立場でがんばっていきます。

高校を卒業して1ヶ月働いたところを先ほど言ったようなことを言われて、普通は新しい人が入ったら教育をして一人前の労働者に仕立て上げるといのが店長なり管理職の仕事だと思えます。

MRIを贈ることについて

毎月、若い職員が中心になり蒲田駅で「無料健康相談会」も行っています。先日20人の職員が参加し、50件の相談を受けました。医師、看護師、薬剤師などが相談のついでに、困っている方がいましたら、声をかけていただいております。

新大田病院は、1床あたり8平方メートルと今までの1.5倍になりました。廊下も3倍と広くなりました。無料低額診療事業は、4月に入ってから大田区でも特診券を発行してもらい動きが出ています。また、お知り合いで「病院にかかれぬ」という方がいましたら大田病院へ相談してください。

新大田病院、無料低額診療、MRI導入 無料健康相談会



大田病院事務長
井口 文子さん

保健生協らしく休憩時間にストレッチを

えがけるとおれの成績が下がるからやめる。退職願を出せ」ということでした。次の日職場に行く40箱のダンボールを片付けるよう指示され「まだできないのか、まだできないのか」と言われ、本人はどうとう会社へ行けなくなりました。

MRIの募金と基金も6月に1億円を突破し、地域の方々の力に改めて感謝するものです。46床の回復期リハビリは、文字通りリハビリを中心に行う病棟で大田病院としては新しい病棟になります。新しい病院とともに、新しい医療活動、新しい運動をもっと広げていきたいと考えています。

保健生協らしく休憩時間にストレッチを

保健生協らしく休憩時間にストレッチを

保健生協らしく休憩時間にストレッチを

保健生協らしく休憩時間にストレッチを

保健生協らしく休憩時間にストレッチを